

出席者

(五十音順) 長有紀枝、鈴木基史、竹中千春、羽場久美子、山田高敬

欠席者

(五十音順) 大芝亮、亀山康子、我部政明、古城佳子

議事次第

1. 前回議事録要旨の確認を行った。

2. 日本学術会議政治部会の提案についての検討

- ・ 鈴木委員長より、政治部会から国際政治分科会に対する提案について、以下の説明があった。

人文社会科学振興に向けた24期の課題があるが、以下4つの課題が示され、国際政治分科会が取り組むべき最優先課題として1)と3)が挙げられた。

1) 人文社会科学における評価指標の検討(研究の質向上・評価指標の再構築)

2) 人文社会科学系参照基準のフォローアップ・見直し

3) 人文社会科学系予算・研究資金の現状についての調査(大学予算+研究資金の見直し)

4) 人文社会科学系におけるジェンダー平等促進(若手研究者と女性研究者の支援)

- ・ 鈴木委員長より、提言書の背景が説明された。

人文社会科学系は、理工系に比べてスローサイエンスであり、可視化が難しい中でいかに社会の要請にこたえるか。そうした流れの中に上記1)と3)が位置づけられる。

- ・ 鈴木委員長より、第2回委員会の目的として1)と3)について今後の方向性を検討することが提示され、以下の議論がなされた。

(1) 評価指標の検討

- ・ 9名の委員が、それぞれ何校ずつか担当し、国際政治分野の評価方法を調査する。
- ・ どのような大学が、どのような評価指標を用いて点検評価を行っているかを調査する

(2) 人文社会科学系の予算・研究資金の現状について

- ・ サンプル校を選んでデータ収集を行う。

(1)(2)ともにデータ収集のひな形については、鈴木委員長が政治部会委員と相談のうえ原案を作成することになった(可能であれば次回の分科会にて提示)。

3. 今期の国際政治文化会の活動計画

- ・ 鈴木委員長より、シンポジウム「グローバル政策ネットワークと国際機関：多国間主義の再生に向けて（仮題）」の企画が示された（添付資料参照）。
- ・ 実施時期としては、2で議論した調査が、終了してから（2019年度以降）となろう。
- ・
- ・ 関係分野研究者、日本に支部を置く国際機関の代表者、日本政府代表などをパネリストに迎え、委員の所属校と共催にするのが一案。

4. その他

年度中に3回の分科会開催が必要である。

次回は7月中旬、次々回は、国際政治学会（10月、於：埼玉国際会議場）会場にて開催する予定である。

以上

（文責 長有紀枝）